

心地よい明日への眠り

布団を買おうと思ったとき、何を大切にして選びますか？
値段、色柄、サイズ…。「寝心地」になかなか目が向きにくいかもしれません。
三条堺町を少し北に進むと店頭に「2階ではご自由に寝心地を体感していただけます」の文字。
どんな布団で寝られるのだろうか。その扉を開いてみました。

様々な快眠の方法をアドバイス
してくださるマーケティング室の
松尾藍さん。
イワタの寝ごち科学研究所の
研究員です。

「世界中の人々が安心して
眠れるピースフルな社会を」と
夢を膨らませる
株式会社イワタ
代表取締役社長 岩田有史さん。

寝具の生涯を見据えた素材

「よく眠れる素材を
探していたら、天然



素材が良いということにたどり着きました。」そう語るのは株式会社イワタ代表取締役社長の岩田有史さん。イワタが大切にしたのは寝具の機能性。かけ布団であれば、寝床内温度と湿度をいかに適度に保つか、ベッド・マットレスであればいかに身体を沈みを受け止めてくれるか。こうして機能性を追い極めていくうちに、羽毛やキャメル、馬の毛など天然素材を選び抜くことができたといいます。ただ機能性にすぐれた品質の良い素材を使うということだけでなく、それが最終的に環境負荷をできるだけ減らしたものにしたい、というこだわりを持つてのこともありました。

寝具との長い付き合い方

選び抜かれた素材を使った寝具に私たちが出会い、心地よく使うための工夫がイワタにはたくさんあります。

寝具を「選ぶ」とときには、一人ひとりの住まいの環境や眠りの状態を相談することがあります。何よりシヨールームの2階にはお客様が寝心地を体感できるスペースとして、色彩や照明、温度にまでこだわった空間にベッドが5つと和室に布団が一式敷かれています。寝心地を確かめたり、眠りについて話したり、寝具

選びにじっくり一時間くらいかける人もいます。

長く「使う」ためには、「自分でメンテナンスができて、長持ちさせることが大切」という岩田さんの言葉通り、イワタの布団は自宅で洗濯、日干しができます。そんな手入れの仕方をレクチャーするお客様向け講座もあるのだとか。また、一度購入した寝具を何度も使えるように布団の打ち直しも行っていきます。

また、寝具を「使い終わった」後の「リサイクル・キャンペーン」を今年から始められています。対象商品を購入されたお客様が不要になった寝具に専用送り状をつけてイワタに送り返します。その布団を燃焼する際の余熱を発電に使用したり、そこで出る二酸化炭素を森林整備によりカーボンオフセット^(*)をしたりしています。この仕組みができた背景には「無料で布団が捨てられたらいいというのではなく、廃棄物もこのように生まれ変わるんだという社会的意義を伝えたい」という岩田さんの強い思いがあります。

心地よい眠りを求めて

素材の追求と共に「眠り」の理解をも深めていったのがイワタの特徴的なところ。心地よい眠りを作り出すためには睡眠環境と生活習慣の二つの要素が欠かせません。

まず、睡眠環境に関しては「眠りを知らずして布団は売れず」そう考えられた

1995年以降、睡眠環境アドバイザー認定講座を寝具店のスタッフ向けに始められました。以前は寝具店では布団そのものを販売することはできても、お客様のニーズである良く眠れる布団を提案することという認知は薄かったそうです。当初、社内外で「なぜ寝具店が眠りを？」と理解が得られず苦心されましたが、現在では200名以上のアドバイザーを生み出しています。

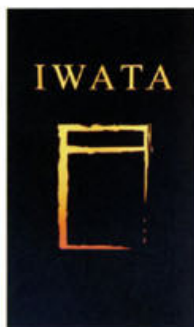
さらに私たち自身の生活習慣を見直すことに関しては、寝具店だからこそお客様に対する快眠講座を定期的に開講しています。日中眠気がある、望む時刻に起きられない、寝つきが悪いなど5人に1人は眠りについて悩んでいるといわれる現代。眠りの構造を学んだ上で、睡眠にかかわりの深い生活習慣の話や寝室の環境づくり、快眠術を学べるこの講座は20代、30代の若い世代にも人気があります。

眠りによる相乗効果を目指す

「睡眠は人間の基本です」とマーケティング室の松尾藍さん。人は人生の約3分の1を睡眠に時間をかけています。「これまで私たちは起きている時間の充実をだけを目指してきたのではないのでしょうか」と問題提起をする岩田さんは「睡眠も人生の一部と捉えられれば」といいます。眠りの質を高めることで生活を充実させる相乗効果をもたらします。例えば夜1時間早く寝て1時間早く起きるとは健康的なライフスタイルを確立することにもエネルギー使用量の削減にもつながります。健康面から生活習慣を見直し、それが結果的に環境問題への行動に結びつくのではないのでしょうか。



寝具御説専門店 IWATA 京都市中京区堺町三条上ル「シンプル&エコロジー」をデザインコンセプトに掲げた寝具製造会社の直営店。創業は天保元年(1830年)。180年の伝統を受け継ぎながらも常に新しいものを積極的に追求する「眠りのバイオニア」。



(*)1) カーボンオフセット: 人間の生活などを通して「ある場所」から排出された二酸化炭素などの温室効果ガスを、植林や自然保護などによって「他の場所」で直接的、間接的に吸収しようとする考え方や活動のこと。イワタの場合は焼却時に発生する二酸化炭素を森林保全団体である一般社団法人モア・トゥリーズを通して四国の森林整備活動によりオフセットしています。